

★歯科・口腔外科の薬物療法について★

5月9日は「口腔(5・9)ケア」の日です。口腔ケアは健康の維持ならびに向上、さらには各種治療においてとても大切です。

Q1、適切な口腔ケアはなぜ大切なのですか？

A1、厚生労働省によると、口腔内の健康は生活の質、全身の健康、症状や疾患に大きく関わる大切な要素とされています。

口腔内の細菌が全身疾患を引き起こすこともあるため、定期的な口腔ケアが推奨されています。口腔ケアは誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎などの全身疾患のリスクを低下させることにも繋がります。

Q2、歯科口腔外科で処方される薬剤はどのようなものですか？

A2、当院採用薬で歯科領域に用いられる主な薬剤をご紹介します。



分類	特徴	院内採用薬	備考
含嗽薬	消炎、創傷治療促進、ヒスタミン遊離・白血球遊離阻止、抗潰瘍作用	アズノール含嗽(顆粒、液)	
鎮痛薬	創部の鎮痛	ロキソプロフェン錠、ボルタレン錠	消炎鎮痛作用 (NSAIDs) 小児への処方には注意
		カロナール(錠、細粒)	解熱鎮痛薬 (アセトアミノフェン)
抗菌薬	抜歯創、口腔手術創の二次感染予防	サワシリンカプセル オーグメンチン錠	ペニシリン系 アレルギーに注意
		ケフラールカプセル	セフェム系
		エリスロシン (錠、ドライシロップ) クラリスロマイシン(錠、ドライシロップ)	マクロライド系。副作用が比較的に少なく安全性が高いと言われる。
		レボフロキサシン錠 SPトローチ	ニューキノロン系 腎機能に注意
口腔カンジダ症治療薬	カンジダ属に強い抗真菌作用	フロリードゲル経口用	
口内炎等治療薬	創傷治癒促進・消炎作用	デキサメタゾン口腔用軟膏	

Q3、口腔癌の治療方法と、使用される薬剤を教えてください。

A3、●ほとんどの口腔癌の治療法には他領域の癌と同様に、手術・放射線治療・化学療法・免疫療法などがあります。病期によって治療方針は異なりますが、多くの場合外科治療(手術)が軸となります。

●進行した口腔癌では、手術後に化学放射線治療(化学療法と放射線治療を併用した治療)を実施することで再発の危険性を低減させる治療が検討されます。また切除不能と判断される場合にも化学放射線治療が選択される場合があります。これらの場合一般的に用いられる抗がん剤はシスプラチンになります。

●癌の再発や遠隔転移を認め、根治が難しいと判断される症例には、癌の縮小あるいは進行を遅らせることによって延命を図る緩和的化学療法を検討します。これらの治療に用いられる抗がん剤は、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬、タキサン系抗がん剤、フッ化ピリミジン系代謝拮抗薬、プラチナ製剤などがあります。